

a 学校教育目標	「自ら伸びる ともに伸びる 子どもの育成」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	自分を愛し、夢を語る児童の育成 小中一貫教育で、15の春に【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもを育成する学校。そして、保護者・地域に信頼される学校。								
評価計画					自己評価				改善方策	学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h達成値	2月 i達成値	j評価	k結果と課題の分析	n改善方策	I 評価 イロハ	mコメント	
確かな学力	○学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ児童の育成 【標準学力調査偏差値平均55以上】 ○ICTの活用 【プレゼン能力の向上・タピング検定・情報モラル教育】	◎学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ力を育む授業改善による、学力の向上 【学期末テスト学年平均85点以上】 【児童アンケート】 【個別指導の充実】 ①授業における個別支援の充実 ②基礎学力の定着のため補充学習・幸崎検定テストの実施 ③認知機能強化トレーニング(コグトレ)	単元末テスト 児童アンケート	平均得点率 85%以上 肯定的評価 80%以上	82%	96	B	1学期単元末テストの結果 算数科到達率82% 「学習集団アンケート(9月)」21項目中、肯定的評価80%以上91% <成果> 単元計画表の作成により、見通しをもった学習する力の向上 自律的な学ぶことができる学習環境の設定により、算数を楽しいと感じる児童の増加 継続したR80の取組により、学んだことを自分の言葉でまとめる力の向上 STB(幸崎トレジャーBOX)の活用により、授業中の発表や振り返りで表現する力の向上 <課題> 授業の中で児童がICTを活用する場面の設定 児童が考えを整理したりまとめたりする場面の設定	【授業改善】 ①見通しをもった学習につながる単元計画表の活用 ②自律的に学ぶことのできる学習環境の設定 ③児童が考えをまとめられるようなR80の質的向上 ④獲得させたい見方・考え方を明確にしたSTBの積極的な活用 ①～④の取組を継続・進化させるとともに、ICTの更なる活用を図る。	○	・子どもたちに分かりやすい工夫がされている。分かってくると楽しくなる。進んで取り組めるというプロセスを踏まえているように思う。結果も出ていると思う。 ・その学年も皆が自分の意見を発言できる空気があり、各々が自分の考えを主張できていた活気があった。 ・子どもたちの学ぶ喜び、意欲を大切に。高学年になるほどICT活用力に大きな差が出てくるので、その点に配慮した指導が良いと思う。 ・楽しんで学習するために先生がいろいろと考えているのがすごいと思う。子どもたちにも届いていると思う。 ・学習したことを自分の言葉でR80でまとめる力が定着している事はすごいと思った。単元計画表が改善され、ページも記載されており、家庭でも予習する姿が見られる。	
								教務・研究部				【ルールを守り活用できる児童】 ①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子どもの姿で設定 ②タピング練習で情報活用能力の基礎力の向上 ③情報モラル教育の充実
								○認め合い、支え合うる集団づくり				【i-check 散布図I(個人の心の安全)満足群へ】 ○総割り班・異学年を軸とした自治的な学び【児童アンケート】
豊かな心	○目標に向けて、仲間と共に考勤・協働できる子どもを育てる。 【i-check 散布図I(個人の心の安全)満足群へ】 ○総割り班・異学年を軸とした自治的な学び【児童アンケート】	i-check 散布図 I(個人の心の安全) 児童アンケート	マイプレゼンの実施	年3回以上	100%	100	A	全学級1・2回スライド等のプレゼンテーションソフトを使った発表を実施 <成果> 研修による教職員のICTの活用の技能向上、意欲向上 ICTの活用場面の増加 校務DXの推進 <課題> タピング練習や家庭学習での活用の時間の設定等を通した情報活用能力の向上 アプリを含めたクロームブックの使い方等、情報モラル教育の充実	【ICT活用能力の向上】 ①タピング練習の継続 ②ICTを活用した家庭学習の実施 ③各学級による情報モラル教育の継続	○		
健やかな体	○運動に対する意欲の向上 【個人記録の結果向上】	生徒指導・保健部	○楽しみながら体を動かすことで、体力を向上させる。 【個人記録の結果向上】	【運動に対する児童の意欲向上】 ①総割り班を生かしたスポーツフェスティバルやリレーの実施 ②外遊びWEEK等の取組 ③視覚的に自分の目標やゴールが見えるカードの作成と評価	個人記録の結果	向上した児童の割合90%以上		楽ししながら体を動かすことで、運動に対する意欲の向上を図った。 <成果> スポーツフェスティバルで楽しみながら体力の向上を図る 体力テストにおける、目標設定カードを作成 結果をレーダーチャートにして個々にフィードバック 次年度に送っていくことをシステム化 <課題> 男子では全国平均を下回った項目はなく、女子では、50m走が全国平均を下回った。 全国平均を上回ったが、相対的に立ち幅跳びとソフトボール投げに課題が見られた。	【体力の向上】 ①運動委員会を中心に行なうなど朝会やマラソン月間など、運動習慣の確立に向けた児童主体の取組の実施 ②目標を明確にした体力テスト(2回目)の実施 ③体育の授業におけるサーキット運動の実施やICTの活用	○	・個人カードは良いアイテムだと思う。 ・体力向上に向けて様々な取組もすばらしいと思う。継続をお願いしたい。 ・基礎的・全面的な体力の向上も必要だが、好きな・得意な種目を一つ作ってあげほしい。 ・前回は、全国平均を下回った項目が多かったが、着々と体力がついてきているので、今の取組を続けてほしい。 ・学校でのマラソンや縄跳びなどの取組は、保護者としてもうれしいので継続してほしい。	
地域に信頼される学校	○コミュニケーションによる教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。 【コミュニケーションスクール】 ○チーム幸崎として、業務改善を図る。 【時間外勤務時間目標総時数達成率100%(平均45時間)】	教務・研究部 総務部	○幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。 【コミュニケーションスクール】 ○在校時間を短縮する。 【時間外勤務時間目標総時数達成率100%(平均45時間)】	【コミュニケーションスクールを活用した教育力向上】 ①学校の教育活動を、地域と共に企画・実行することで、地域の方や地域の事に関わる機会の創出 ②総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント(地域資源のよりよい活用方法・地域学習の充実)の推進 【適材適所の人材配置による業務改善】 ①個性を発揮できる職員に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②理性的安全性を醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生き生きと働くことができる組織へとさらに成長	児童アンケート 時間外勤務時間数	97%	121	A	コミュニケーションスクールを活用した教育力の向上 地域資源を活用した地域学習(南山先生、水辺・海辺教室、芋の苗植え、七夕まつりなど) 自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート2項目中、肯定的評価97% 地域と学校が一体となった教育活動の計画・実行 地域の方への感謝の手紙で気持ちを視覚化 児童は、地域の人々の優しさの良さを実感 <課題> 地域の特色(自然、歴史など)について具体的に言える児童が少ない	【コミュニケーションスクールを活用した教育力の向上】 ①地域学習において地域のゲストティーチャーを招聘 ②地域とつながる文化フェスティバルの実施 【職員のチーム力の向上とさらなる業務改善】 ①各主任を中心とした部の計画的な運営(業務の標準化) ②業務の可視化による在校時間の短縮 ③終わりを意識したタイムマネジメント ④ICTの更なる活用	○	・地域の方々の協力があってありがたい。いつも気軽に相談できるような関係性をこれからも築いていきたいと思う。 ・学校の雰囲気は良いと思う。協力は惜しません。みんなで学校づくりに取り組みましょう。 ・1年生の数名の子どもが手を振ってくれた。4月から地域の皆さんとの交流の結果で、社交性が養われてきていると思われる。 ・今後も地域と一緒に育ってほしいと思う。地域でも自然や特色を話していきたいと思う。先生方の努力に感謝。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【I:学校関係者評価 評価】
 イ:自己評価は適正である。
 ロ:自己評価は適正でない。
 ハ:分からない。